

2007 年 8 月 28 日
株式会社みずほ銀行

仮想空間セカンドライフへの参画について

みずほ銀行（頭取：杉山 清次）は、9 月 1 日（土）より仮想空間セカンドライフにコミュニティスペースを設置します。設置場所は、株式会社電通（社長：高嶋 達佳）がセカンドライフ内に開設した仮想都市空間「バーチャル東京」（＊１）内の体験ゾーンです。

セカンドライフは、米国リンデンラボ社が開発・運営するインターネット上の三次元仮想社会で、世界中で急速にユーザー数が拡大しています。日本語版のサービスは今年 7 月に開始しており、今後の日本人ユーザー数拡大が期待されている状況です。

このような状況を踏まえ、当行では、まず、セカンドライフを体験する中で、当行の商品・サービス等を知っていただけるようなコミュニティスペースを設置します。コミュニティスペースには、観覧車等を順次設置し、当行の商品・サービス等に関する簡単なクイズに正解することによりそれらに乗車することが可能となります（乗車できるのは 10 月初旬を予定）。

当行は、将来、このような三次元仮想空間が、リアル店舗での対面取引と、インターネットバンキング等の非対面取引各々のメリットを同時に享受できる取引チャネルとなることを期待し、今後、その可能性を検証していきます。

（＊１）バーチャル東京

電通×水口哲也（キューエンタテインメント代表取締役ＣＣＯ）のコラボレーションで実現する「元気×未来×ＴＯＫＹＯ」をコンセプトとした総合仮想都市です。

「バーチャル東京」は東京が持つイメージ、エネルギーを凝縮し、そこから生みだされるポップカルチャーを世界に発信します。また、一方的なコンテンツの提供ではなく、クリエイター（ユーザー）が積極的に関与する場をすることで、常に変化する街「東京」のダイナミズムをセカンドライフ上に再現します。「バーチャル東京」はセカンドライフ有数の仮想都市であり、スタジアムや美術館を備える公共ゾーン、学び、体験・商業などのゾーンから構成されています。

(コミュニティスペース外観)

